

北の空の代表的な星座といえばおおぐま座、日本では北斗七星としてなじみが深く、一年を通して北の空に輝いています。このおおぐま座を見るとしっぽが実際の熊に比べて異常に長いことが気になります。



北斗七星と流星 小山市思川堤にて撮影



デビルズタワー国立公園の大熊の絵

なぜこんなに長いのか、それにはいくつかの神話あります。ギリシャ神話では大神ゼウスが、アメリカ・インディアンに伝わる神話では森の王様である樫の木が、いずれも地上で暴れる熊のしっぽをつかんでグルグル回して天に放り上げた時に伸びてしまった、という話です。

ところが、アメリカのデビルズタワー国立公園のビジターセンターに山の上に逃げたインディアンたちを襲う大熊の絵があるが、地上にいるこの大熊のしっぽも同じように長い。これには別の話がありそうです。

日本では、北斗七星が最もなじみが深く、各地にさまざまな呼び方や言い伝えが残っています。

・ 星の数から

ナナチョウボシ 埼玉県加須市、千葉県野田市などの利根川流域

シチケンボシ 神奈川県横須賀市走水

ナナヨセボシ 茨城県岩井地域、ちなみにスバル星団は九寄せ星、カシオペアのWは五寄せ星

・ 形から

タマンジャク 茨城県猿島郡境町 丸形の器に柄をつけた杓子(玉杓子)に見立てた

・ 見える方角から

ニシナナツブシ 沖縄では北のことを「ニシ」、西のことは「イリ」と言っており、ニシナナツブシは北七つ星という意味になる、等々。

皆さんの地元ではどんな呼び方をしているか、調べてみてはいかがでしょうか。